

## 常任理事会だより

山川智之

本稿では、前号で報告後、平成22年11月26日、12月17日、平成23年1月28日、2月25日に開催された計4回の常任理事会の内容のうち主なものをお伝えするとともに、日本透析医会の主な活動についてご報告します。

### 1. 透析医療におけるチーム医療（職種別分担）に関する検討

厚生労働省では、現在チーム医療推進会議において職種別業務分担の見直しが進められております。しかしながら、これまで厚生労働省で透析医療における業務について検討されたことはありません。透析医療は古くからチーム医療が確立していた分野であり、その一方で透析医療における医師不足は顕在化しつつあります。こうした状況の中で、透析医療においても看護師と臨床工学技士の業務と権限を拡大することは、各々の施設における治療の継続と、医療の質を維持するための一つの手段ではないかと考え、日本透析医会は、日本腎不全看護学会、日本臨床工学技士会の協力で、「透析医療における職種別分担に関するアンケート」を昨年11月に透析医会施設会員にお願いしたところ、482施設（回収率48%）からご回答頂きました。ご協力頂いた関係各位には心より御礼申し上げます。結果につきましては、次号の透析医会雑誌に掲載予定です。また今後、ご回答を元に、透析医療におけるチーム医療のあり方について厚生労働省の担当者等にご提案させていただくことを考えています。

### 2. 透析医療に関するグランドデザイン作成に向けた検討

昨年度から進めております今後の透析医療提供体制のあり方を検討し、透析医療の存続に関わる提案を行うためのグランドデザイン作成事業ですが、検討課題を、①透析医療機関の経営環境の分析と予測、②透析提供体制の分析と予測、③高齢化による社会的入院、送迎・介護保険との問題と将来予測、④透析の質とQI（Quality Index）の構築、情報公開について、の4テーマに絞り、日本透析医学会の役員の方々と定期的に協議を行い進めております。会員の皆様におきましてはご協力、ご教示よろしくお願い申し上げます。

### 3. 日本透析医会研修セミナーおよびシンポジウムについて

前号の常任理事会だよりでもお伝えしたとおり、今秋の日本透析医会シンポジウムは初めて地方

開催となります。福岡県透析医会の協力の下、平成23年10月23日（日）アクロス福岡で開催の予定です。詳細につきましては次号およびHP等でお知らせします。平成24年5月の総会は研修セミナーと同時開催の予定です。

#### 4. 日本透析医会公募研究助成

日本透析医会は例年、腎臓病、腎不全医療研究者に対する研究公募助成を行っておりますが、今年は27件の申請がありました。たくさんのご申請を頂き誠にありがとうございます。平成22年度の公募研究助成については、平成22年9月24日までの募集に多数の応募をいただき、同年11月15日開催の研究助成審査委員会において、厳正、慎重に審査した結果、別掲の14課題に対し、総額21,000,000円を助成することといたしました。詳細については日本透析医会ホームページをご参照ください。

#### 5. 公益法人認定への対応

公益法人制度改革に伴い、公益認定を受ける場合、2013年までに日本透析医会は公益社団法人の認可が必要となっております。日本透析医会においては、災害対策事業など事業の公益性については認められるものと考えておりますが、定款変更等多数の手続きが必要であり、現在鋭意準備を進めております。

#### 6. 東日本大震災について

2011年3月11日14時46分、地震発生時山崎会長以下役員の多くは東京都中央区の会議室で日本臨床工学技士会、日本腎不全看護学会との会議中でした。地震発生後、一同屋外に避難し会議は中止、地震の規模が明らかになるにつれ我々の緊迫感は増していきました。

会議室はそのまま日本透析医会災害対策本部となり、この文章を書いている3月18日現在まで曜日を問わず深夜まで役員及び事務局員が本部に詰めて現在に至っています。災害対策は日本透析医会の基幹事業であり正念場であるとの覚悟で取り組んでいます。日本透析医会の取り組みについては、次号以降でご報告させていただきます。犠牲者の方のご冥福、被災者の方のご無事を心よりお祈り申し上げます。